

# 童

2016年7月22日

大地の丘は深い緑に覆われ、夕方ひぐらしの鳴き声が響くようになったこの頃。いよいよ夏がやってきたようです。ヒマワリがぐんぐん伸び、その横でコスモスも負けじと背比べをしている花壇。ジャガイモを掘り、連日フライドポテトをガンガーで、好い気になって揚げ続けている青ちゃん。連日、花壇や畑の草取り、草刈りに奮闘しているスタッフたち。この時期の草の伸び具合は、まさに梅雨明けです。恐ろしい勢いで伸びてきています。もちろん、同時に、野菜も果物も大きくなってきていますが。

大地の夏の名物流しそうめんも、最後は、自分たちの手作りうどんで盛り上がり、ひとまず先に、夏の風物詩が終了となりました。海水浴 夕涼み会もお天気に恵まれ、こちらも、大地の夏の行事も無事終了。おかげさまで、盛り上がる事ができました。

そして1学期終了と同時に夏休み。実質的には、大地の夏は無事終了といった感じです。そして、いよいよ、これからは、各家庭や友人たちとおもいきり過ごす夏休み。自分たちの好み、目標 目的にあった熱い過ごし方を選択してお楽しみ下さい。夏は、やはりエネルギーが飛躍する季節。熱く挑戦する体験をぜひお勧めします。家族で 友人と、そして、親子で、夫婦で、青春を満喫してください。

## 【お話会盛会】



一昨日、農山村民泊の会の会員として、都内の中学生4名(林間学校)を1泊で受け入れました。ほとんどの受け入れ家庭は、平日だけに、農業を営んでいる70歳前後のご家庭。長男の雄飛たちも受け入れているので、長男の家庭(まだ、恋人同士であるが)、青山夫婦は、会員の中では、若くて特別な雰囲気があります。よって、中学生たちに「君たち、ラッキーだよ。たぶん、一番面白い処へ来たかもしれない」と挨拶してあげます。我が家には、坊主頭の子どもが4名。「君たち、野球部?」「そうっす」 全員野球部とわかり、大地についた早々、グローブを受け取り、スロープでいきなりノック。これで一気に打ち解けて、盛り上がり、そのままジャガイモ堀に出かけました。その後、五右衛門風呂の風呂焚き、ガンガーでフライドポテト・天ぷら、そして、うどんと、都会の子どもたちに、いきなりの洗礼。もちろん、五右衛門風呂の火焚き、かまどは、幼稚園の子にはかないません。真っ暗になるまで、食べては遊び、そして、クライマックスは、この日、青ちゃんの大人の友人たちも「大人の幼稚園」でいきなり来てしまったので、中学生たちは、雄飛にお任せ。案の定、寝袋を準備して、畑へ誘導されました。もちろん、この晩は、野宿、星を見ながら、草の上で一夜を過ごしたことは言うまでもありません。たぶん、一番すごい民泊だったに違いありません。この中学生たちは、間違っても、飯綱町、長野県の一般家庭がこのような暮らしを普通に行っているとは思っていないことを祈ります。感性豊かなこの時期に、どう感じてくれたか、そして、心のアルバムの一頁になることを祈ります。

次に「大人の幼稚園」として来たメンバー。3週間前位に遊びに来たいようなことを言っていて、「本気で来るんだったら連絡して」と伝えたきり、音沙汰なし。そして、いきなりキャリーバッグを連ねて、男性4名女性1名どやどややってきました。「まあ、その辺で遊んでいて」と言って声をかけたら、いきなりスロープで寝転んで「最高!!」と叫び、その後、魔女の森へ行ってキャーキャー言って遊び、その後急に静かになり、あみあみで皆昼寝をしていました。

5年前位に代表格の1名が大人の幼稚園に来たことがあり、その感じで遊びに来たという旨。夕方、揚げたてのフライドポテトを食べながら、「最高おいしい!!」と言って、飲み始めました。その後は、天ぷらやうどんを食べて、飲んでゆっくり過ごし。クライマックスは五右衛門風呂。素晴らしい満月で、狼男が出るような夜。あちこちで狐の鳴き声も聞こえ始めました。男4人五右衛門風呂に入り、「わおわお」と遠吠えをはじめ、そして、定番である五右衛門風呂から階段を下りて、スロープを走り回ったり、転げまわったり、そして、瞑想をしたりして過ごしていました。もちろん素っ裸であることは言うまでもありません。ののほ文庫2階のゲストルームに荷物を運びこんで、ここで寝ようと思っていたようですが、満月の過ごしやすさ最高夜、やはり外で寝るのがいいよと勧め、文庫のベランダに布団を敷いて、ここでいる語り始めました。その途中、小澤健二の「うさぎ」のことを話すと、全員、文庫から「子どもと昔話」を持ち出し、その後は、予想通り。その夜、そして、翌朝までも、それを読んでいました。

翌日は、その文庫でお話会が予定されていたので、「きっと、興味もないと思うけど、ちなみにお話会に参加してみたら」と儀礼的に声をかけてみました。とにかく、何にでも興味を持ち、大地の勤めるものは何でも面白いと思っているらしいのですが、さすがに、お話は、厳しいでしょうと内心思っており、「私語は慎んでもらい、決して、いびきをかいたりして寝ないでもらいたい」と釘を刺さしてもらいました。

さて、お話会開始。まずは、「おいしいおかゆ」始まった途端、「へー」「ほー」とかいう声が聞こえ始め、後ろから見ていると、頭がお話毎に動き始め、まるで子供のように反応しているのです。まあ、初めてだから、最初だから、こんなものかなあと感じていましたが、次々にお話が進むにつれて、更に、体全体からの反応や息遣いがすごくなっていくのです。クライマックスでは、「その棒欲しい!!」と子供のように叫んだり(年齢は60を超えているかもしれない)、「そのドアを開けないで」と祈っていたり。会場は、この人たちの反応のおかげで、まさに「三つ目のリンゴが落ちた」のでした。この意味は、お話会では、語り手と聞き手とお話の3つが融合した時に「いいお話会だった」とのことです。

もちろん、お話会終了後の話題は、まさに、この厄介な客人たちでもちきりでした。この人たちのお蔭で、素晴らしい語りができたのです。そして、すごいお話会になったのです。驚きです!!

後談ですが、お話会が始まる前にこの客人たちの会話で「お話なんて、俺たちもできるよな」と話していたらしいですが、途中の休憩を迎えると、顔の色が変わっており「深い!! すごい!!」えらい剣幕で興奮していたらしいです。また、参加者たちも、「一体何者!?!」「青ちゃんみたいなのがぞろぞろいる」と口を揃えて言っていました。

- 客人① 新潟の超田舎の個人スーパー経営者。買い物客はおおよそ3時間位いて楽しむらしい。全国からお客。
- 客人② 靴がほとんど置いていない靴屋。選ばせないで「あなたはこれ」日本に12人のマスターシューフィッターの一人
- 客人③ 岐阜の田舎の呉服屋。呉服動物園として、斜陽産業の中で、唯一右肩上がりの成長呉服屋
- 客人④ 新聞配達取次店経営者。新聞だけでなく、パン・地域の特産品野菜なども配達。夢新聞発行指導など
- 客人⑤ 業務用カーテン取り扱い経営。お話を一番子ども以下になって聞いていた人。新メンバー。

共通している点 ①目が子供のように澄んで無邪気 ②好奇心旺盛 ③人生仕事はすべて楽しいと言っている  
④面白い人 面白いことが大好き ⑤五右衛門風呂で裸で走り回るになることで全て解決。  
⑥大地のエネルギーが大好き(手前味噌ですが) やはり熱い客人たちです!!

何事も楽しんで一生懸命やる、子供のように純粋に他人を気にせず自分に素直にやりたいことを素直に楽しむ!!